

診ているのは、  
見えない空気です。



きれいにしよう日本の空を

**日本空調サービス株式会社**

**Nippon Air Conditioning Services Co., Ltd.**

**2024年3月期 2Q(4-9月)  
決算説明資料**

2023年11月

東証プライム・名証プレミア：4658

本資料は、日本空調サービス株式会社(以下、当社)の現状をご理解いただくことを目的として当社が作成したものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料に記載の内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は本資料に含まれる内容の更新・修正を行う義務を負うものではありません。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に記載の数値は、別途注記がある場合を除き、全て連結で表記しております。

本資料は、提供されましたご本人様限りでご利用ください。本資料のいかなる部分についても一切の権利は当社に帰属しており、電子的もしくは機械的にまたはその他の方法を問わず、本資料の全部または一部を、無断で引用、複製または転送等により使用しないようお願いします。

- I. 会社概要と強み** **p.02-p.25**
- II. 業績ハイライト p.26-p.38
- III. 長期ビジョン達成に向けて p.39-p.48

# 建物設備メンテナンス

技術系従業員：2,538名

拠点：47都道府県＋海外6カ国

会社概要

本社	名古屋市名東区照が丘239-2	
資本金	1,139百万円	
事業内容	総合建物設備 メンテナンスサービス業	
従業員数	連結 3,158名	単体 2,269名
売上高	連結 528億円	単体 364億円
拠点数	国内 83拠点	海外 10拠点

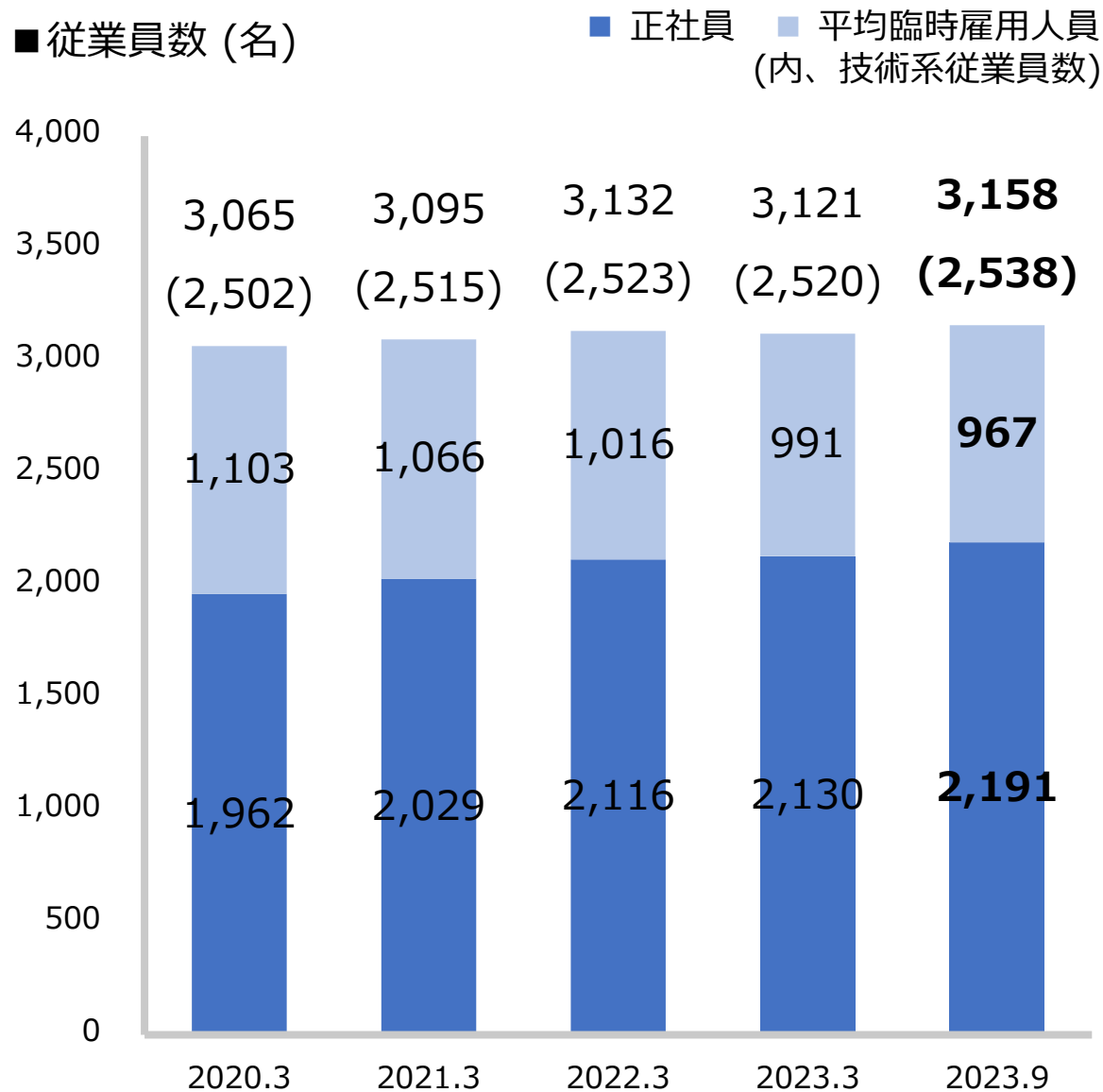
1964年4月

ひがしじゅくちょう

名古屋市中村区東宿町に設立



※従業員数、拠点数(住所ベース)は2023年9月末時点、売上高は2023年3月期実績。

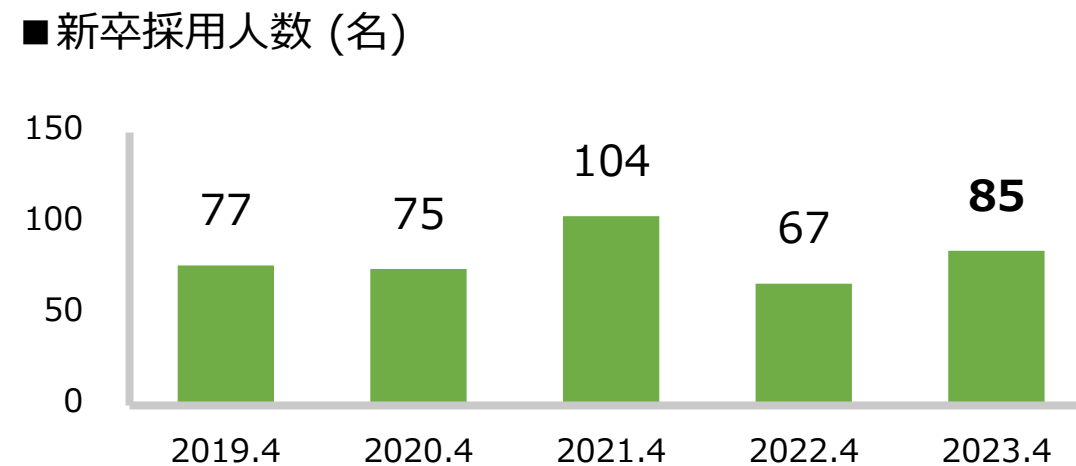


## 8割以上が技術系従業員 技術の会社



### 技術力向上の仕組み

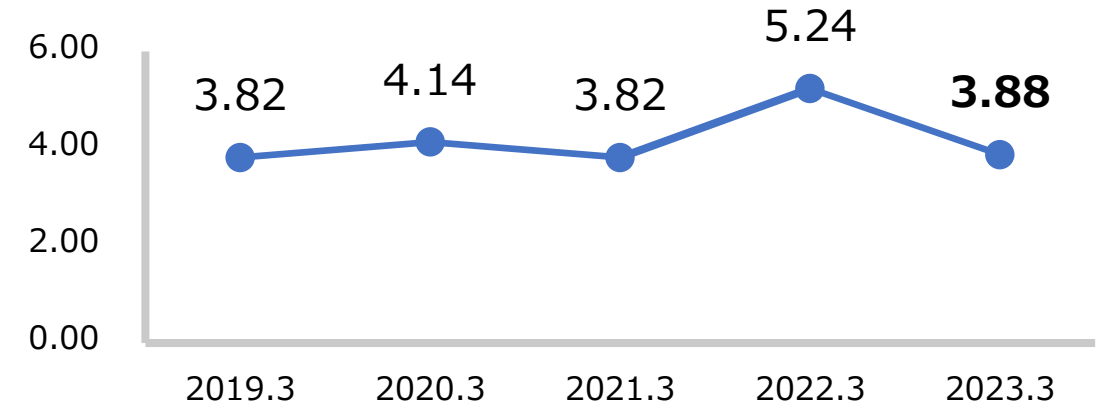
- ・体系的教育カリキュラム
- ・昇格と公的資格のリンク
- ・インストラクター制度等



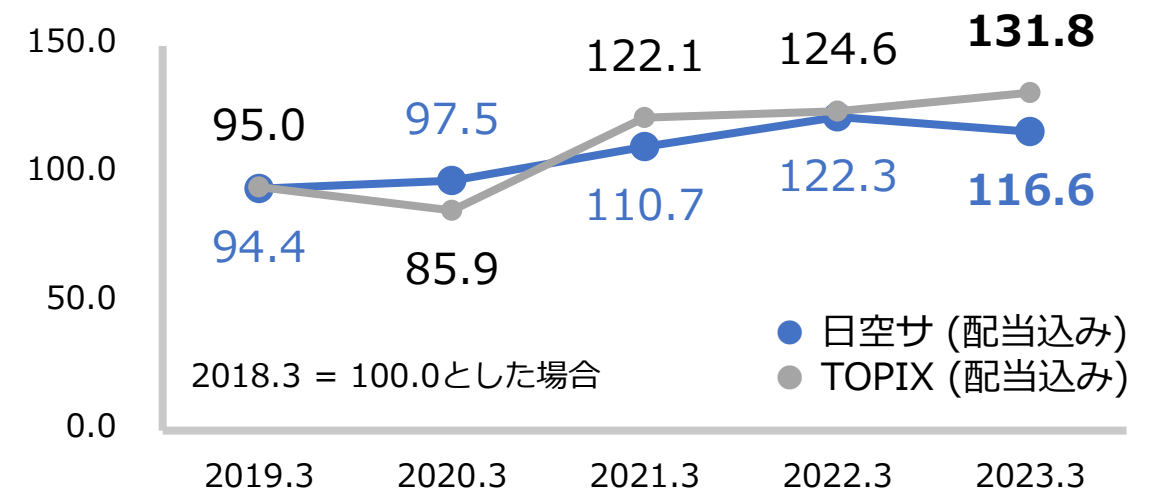
## 株式情報

株価	792円
時価総額	283億円
配当金	1株当たり30.00円
配当性向	51.4%
配当利回り	3.79%
株主数	11,917名
PER	13.57倍 (EPS : 58.35円)
PBR	1.27倍 (BPS : 622.02円)
ROE	9.4%

### ■ 配当利回り (%)



### ■ 株主総利回り (%)



※株価は2023年11月13日時点、配当金・EPSは2024年3月期予想、株主数は2023年9月末時点、BPS・ROEは2023年3月期実績。

※時価総額は2024年3月期2Q末発行済株式数(自己株式を含む)を用いて算出。

# 全てのステークホルダーの幸せ向上



## 社会的価値創造

### 経営理念

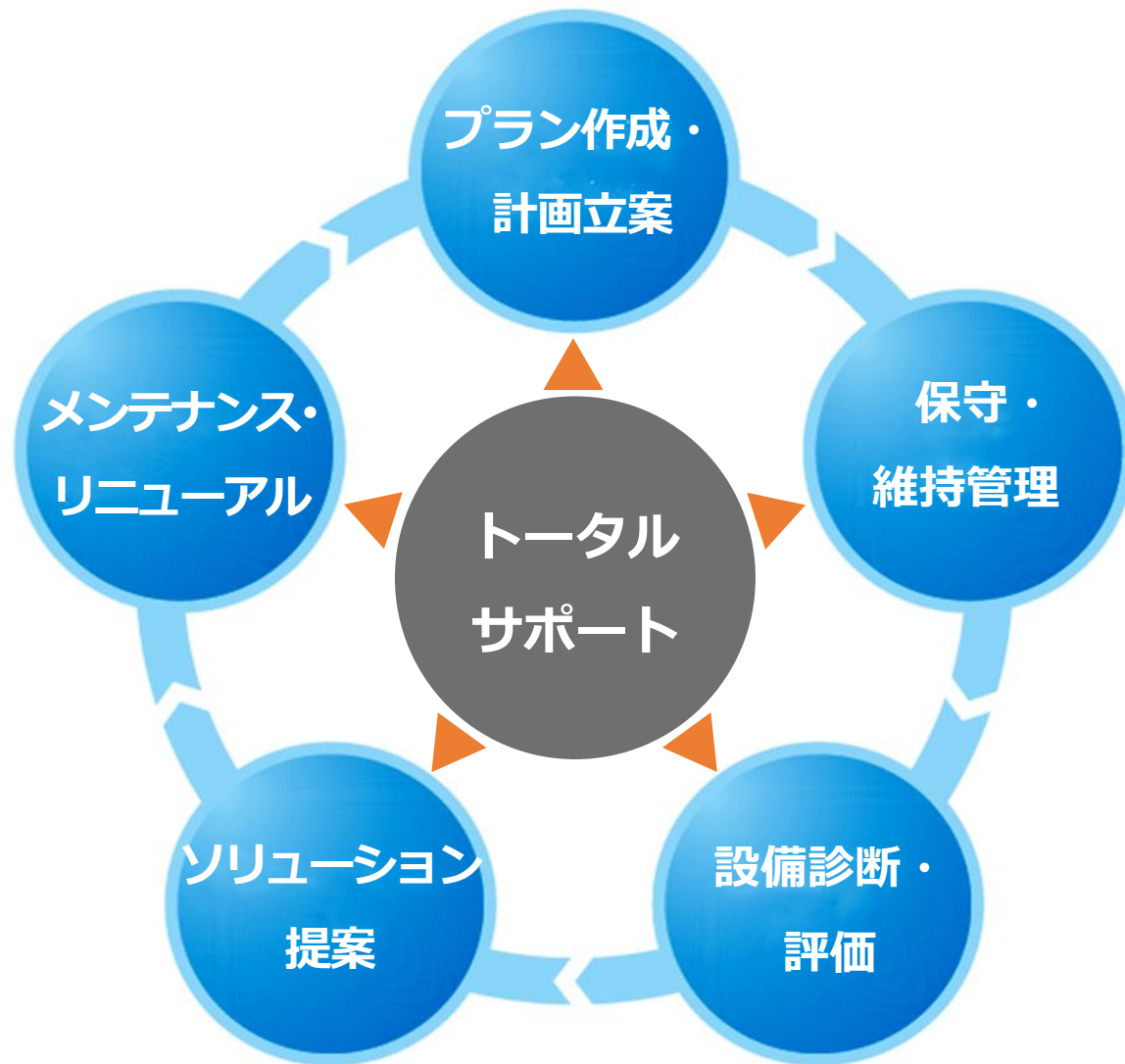
お客様に安心感を与える最適な環境を維持するために、  
技術力と人的資源を結集させ、高品質サービスを提供する



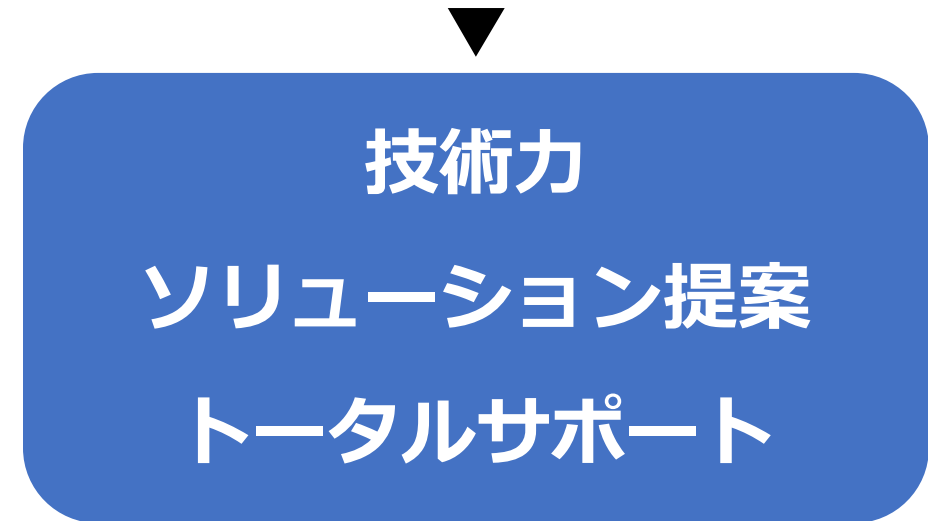
## 経済的価値創造



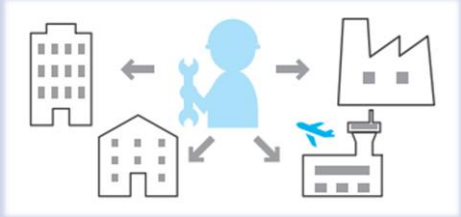

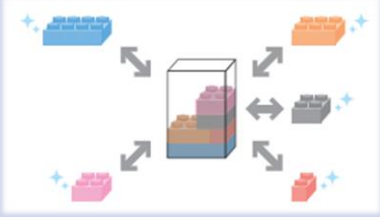
■ ビジネスモデル



維持管理サイクルの  
どの段階からでも自社対応可能



同業他社とは一線を画す特長

事業部門	概要	売上高構成
<p data-bbox="351 482 540 596"><b>PM</b></p> <p data-bbox="140 639 759 688">Preventive Maintenance</p>	<p data-bbox="886 496 1513 659">空調を中心とした建物の設備システム全般に対する点検・整備・修理・交換等</p> 	<p data-bbox="2135 511 2374 625"><b>38%</b></p>
<p data-bbox="351 782 540 896"><b>FM</b></p> <p data-bbox="183 939 718 988">Facility Management</p>	<p data-bbox="886 796 1513 959">メンテナンスサービスと日常の維持管理を合理的に組み合わせた統括マネジメント</p> 	<p data-bbox="2135 811 2374 925"><b>33%</b></p>
<p data-bbox="310 1068 591 1182"><b>RAC</b></p> <p data-bbox="127 1225 769 1273">Reform and Construction</p>	<p data-bbox="886 1088 1513 1250">空調設備や給排水衛生設備等の既設設備に対するリニューアル工事が中心</p> 	<p data-bbox="2135 1096 2374 1210"><b>29%</b></p>

中央監視業務



日常測定業務



定期メンテナンス業務



ソリューション提案



環境診断業務



消毒・除染業務



こんな環境にできないか？  
どうすれば改善できるか？



お客様との対話を通じて

ニーズを引き出し

**「付加価値向上をサポート」**

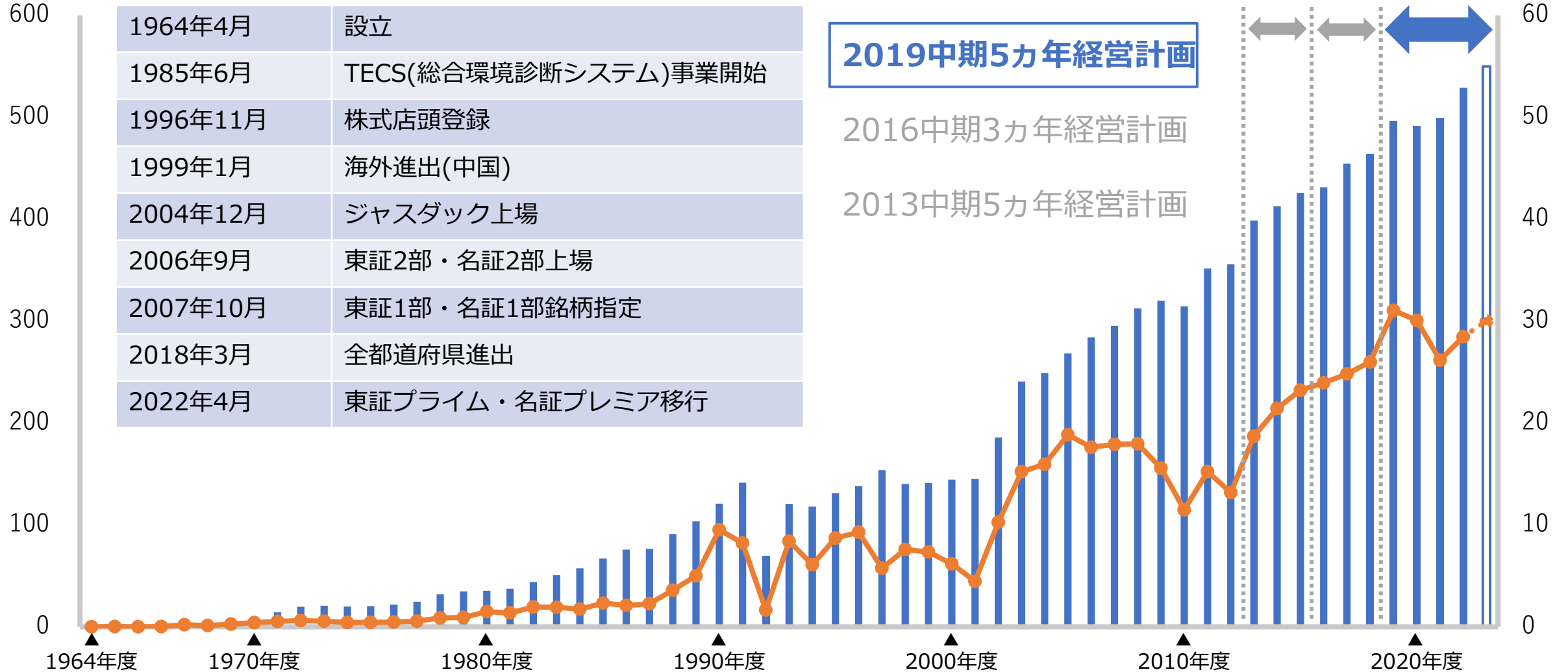


**ESG(環境)**の観点から

お客様の事業活動の

サステナビリティに繋がる

## ■ 創業当時の売上高及び営業利益推移 (億円)



※1969年度(第6期)及び1992年度(第30期)は6カ月の変則決算。

※「2013中期5カ年経営計画」は数値目標を2年前倒しで達成したため、2016年度に「2016中期3カ年経営計画」を策定。

## 創業当時からの3つの目標

- ① 海外進出 (1999年1月)
- ② 東証・名証上場 (2006年9月)
- ③ 全都道府県進出 (2018年3月)

**全て達成**



## 全てのステークホルダーの幸せ向上

- ① 【お客様】 高付加価値サービスの提供
- ② 【従業員】 満足度と技術力の向上
- ③ 【株主様】 安定した還元の実施

**社会全体の価値向上**

日本国内の空調・熱源システム市場は  
2.2兆円程度と推計



そのうちメンテナンスの主戦場となる既設案件は約7割



**当社がターゲットとする市場は**  
**1.5兆円程度と推測**

	当社	A社	B社	C社
時価総額 (億円)	<b>283</b>	1,697	1,029	82
PER (倍)	<b>13.57</b>	15.63	15.57	4.72
PBR (倍)	<b>1.27</b>	1.68	1.45	0.41
ROE (%)	<b>9.4</b>	10.5	9.1	8.8
売上高 (億円)	<b>528</b>	3,037	1,130	346
営業利益 (億円)	<b>28</b>	158	83	19
営業利益率 (%)	<b>5.4</b>	5.2	7.4	5.7
平均年間給与 (万円)	<b>595</b>	493	364	364
平均年齢 (歳)	<b>39.9</b>	46.1	53.5	53.6

## 同業他社比による当社の特徴

- ①売上高・利益の規模は劣る
- ②平均年間給与は3社平均を大きく上回り、平均年齢も若い
- ③その上で、同水準の利益率を維持
- ④各種株価指標は割安感あり



**付加価値創出力の一層の向上と**

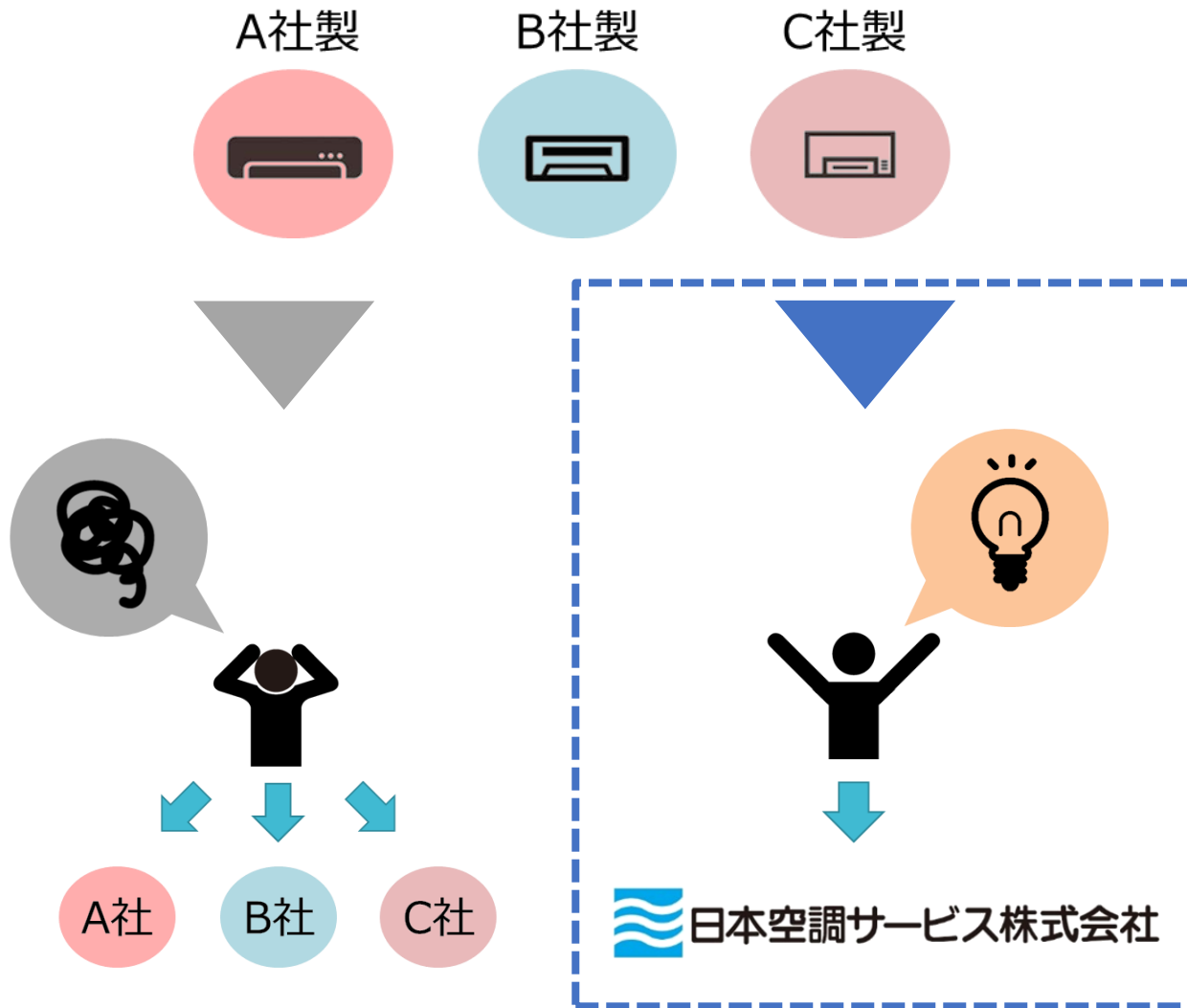
**IR活動強化が必要**

※各社の時価総額は2023年11月13日終値、EPSは2023年度予想、BPS・ROE・売上高・営業利益・営業利益率は2022年度実績。

平均年間給与・平均年齢は2022年度実績。

※各社の時価総額は2023年度2Q末発行済株式数(自己株式を含む)を用いて算出。

## 顧客施設内の多種多様な設備



①独立系企業のため

メーカーの制約を受けない

②技術力を有する従業員で

迅速な自社対応が可能



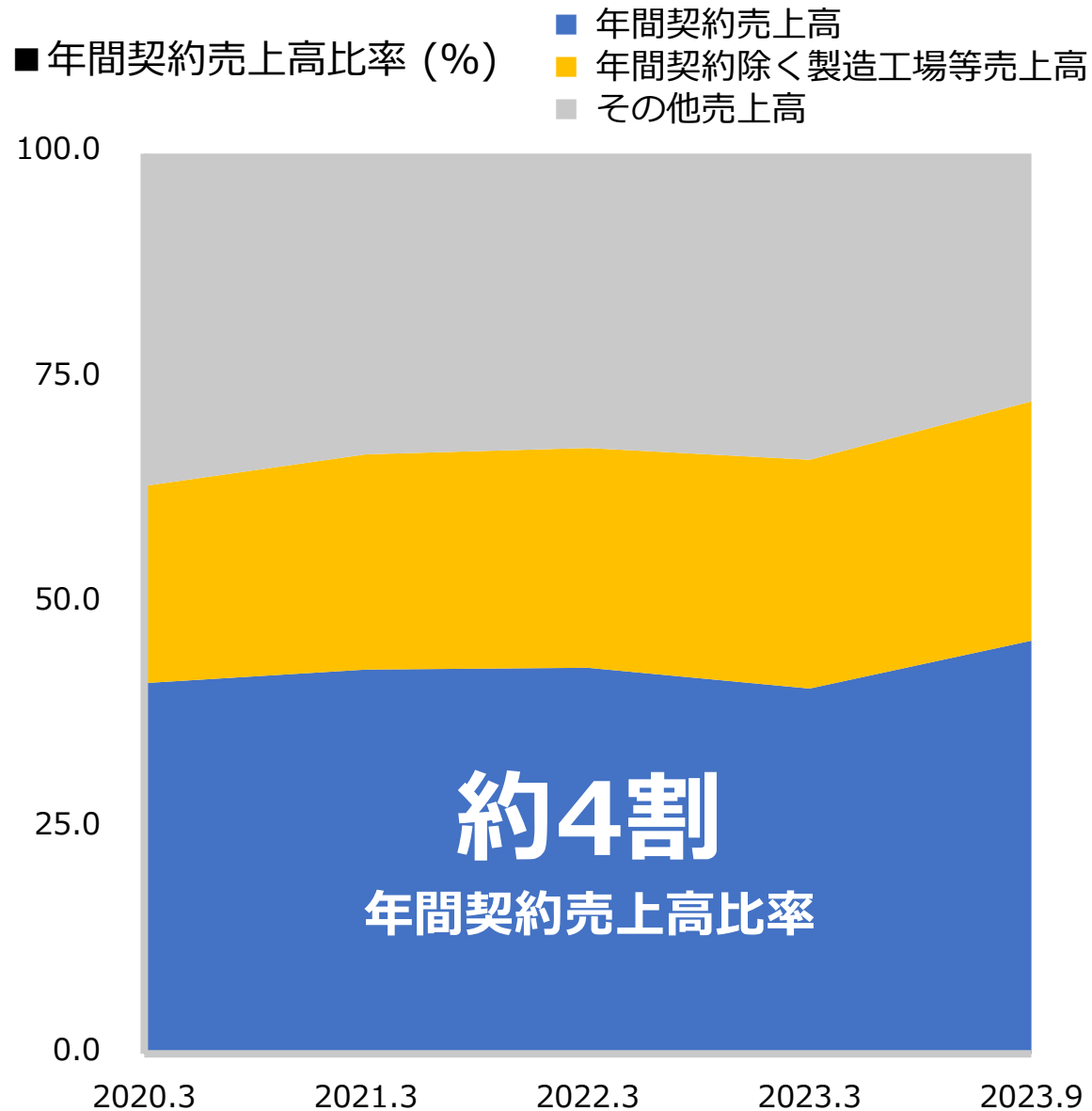
①お客様に提供するサービスの

**柔軟性と多様性**により

**最適な環境づくりをサポート**

②顧客設備担当者の**負担軽減**





①病院を中心に安定した年間契約の維持

②製造工場等の拡大による成長



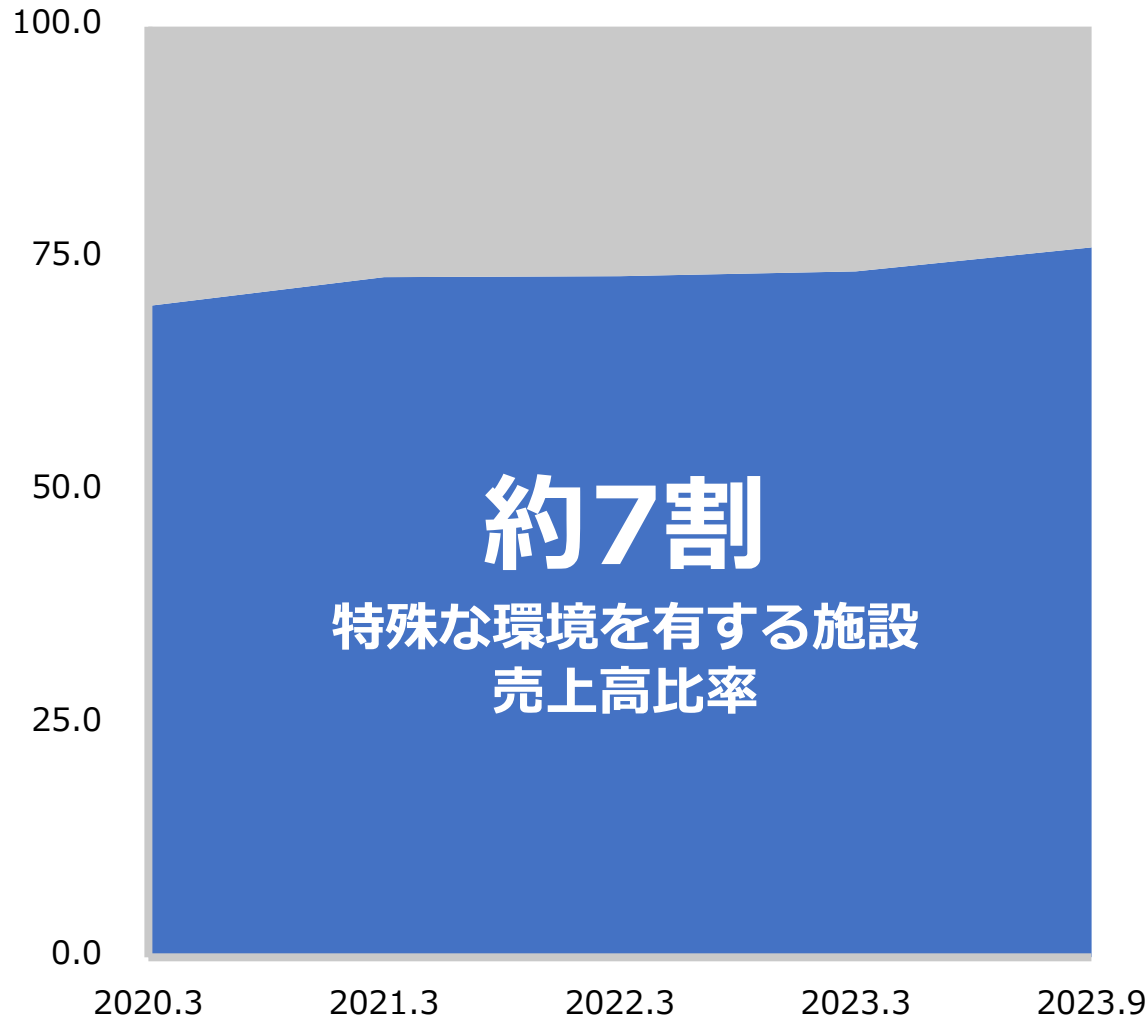
製造工場等はスポット契約が多く、  
シェア拡大により年間契約売上高比率は  
逡減すると推測される



**多業種展開による景気リスク分散を  
図り安定的な成長に繋げる**

■ 特殊な環境を有する施設売上高比率 (%)

■ 特殊な環境を有する施設売上高  
■ その他売上高



シビアな環境を要求される  
病院や製造工場等では  
維持管理に高度な技術力が必要



- ① 同業他社の参入障壁が高い
- ② スイッチング(切替)コスト及びサーチ(探す)コストが高い
- ③ 需給両面での障壁を築く戦略

## 一般ビル



会議室の空調機器が故障



我慢してその部屋を使う  
別の部屋を使う

代替可、緊急性が低い



## 病院



手術室の空調機器が故障



手術室が使えない  
手術ができない

 代替不可、緊急性が高い



## 製造工場



製造工場の空調機器が故障



製品の品質不良  
製造ラインの停止

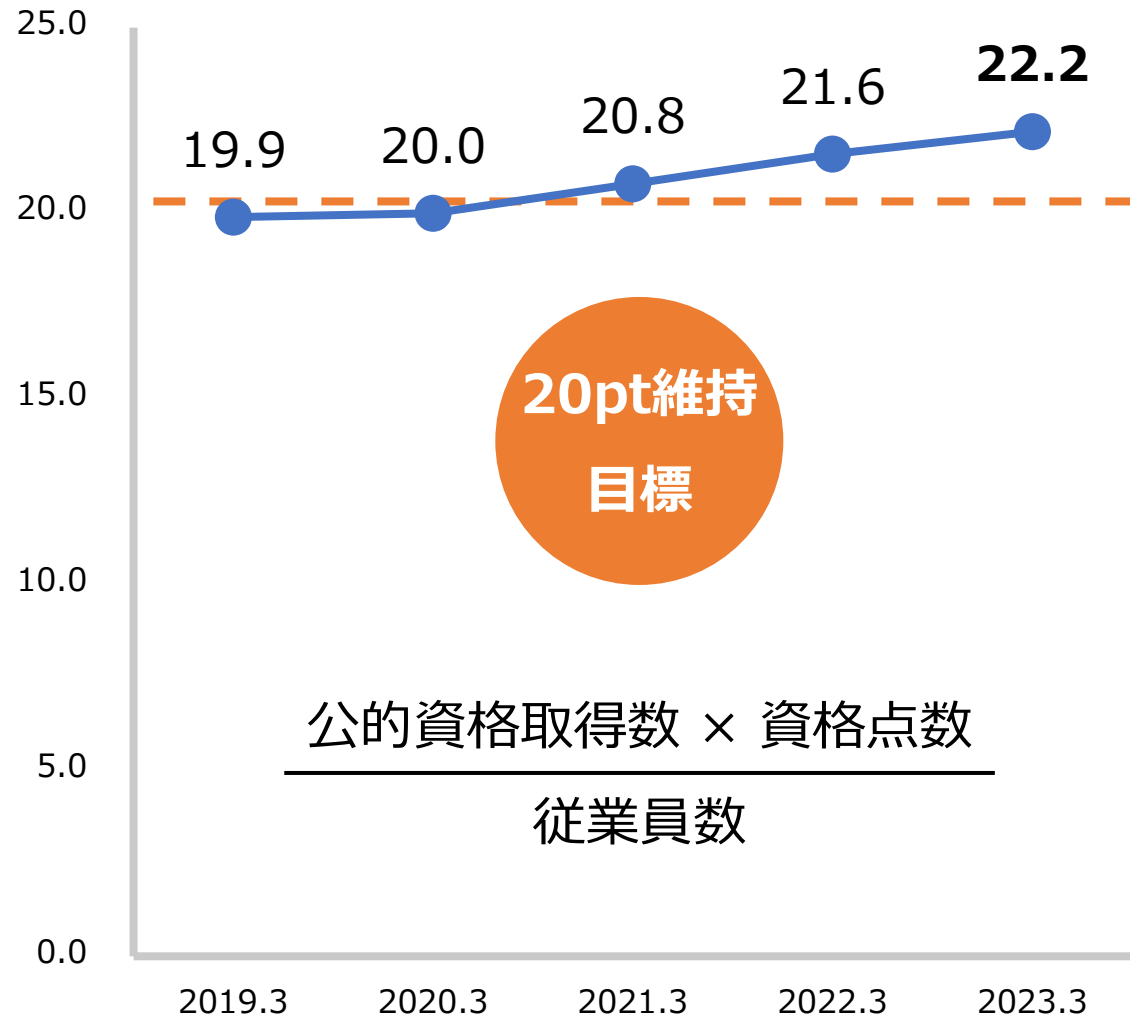


一般的な設備維持管理以外にも、以下のような**技術力**が要求される



※写真は環境性能測定・診断、クリーン機器メンテナンス、環境衛生管理、高性能フィルタメンテナンス、作業環境測定、安全キャビネット性能点検・除染・滅菌・清掃、作業環境改善対策等。

■ 技術力指数 (pt)



公的資格保有総数

**10,017件 (前期比+144件)**

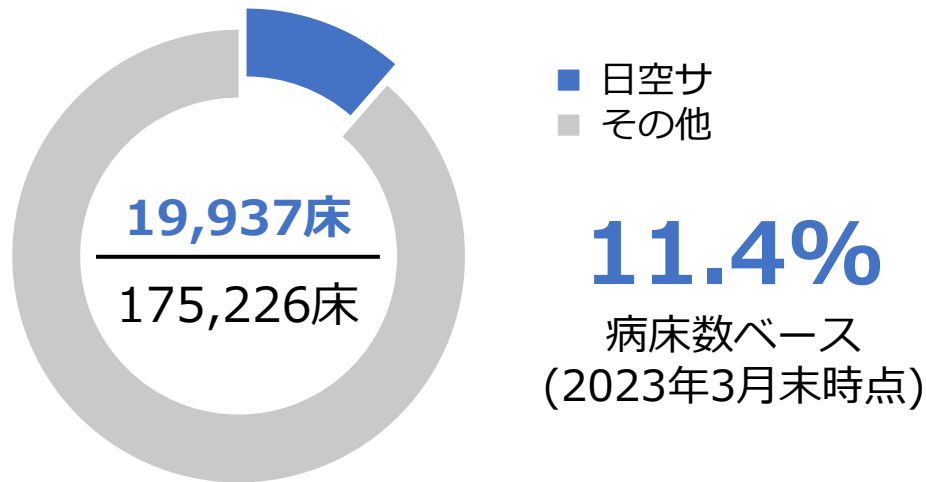


資格数のみで技術力の計測が  
できる訳ではないが、

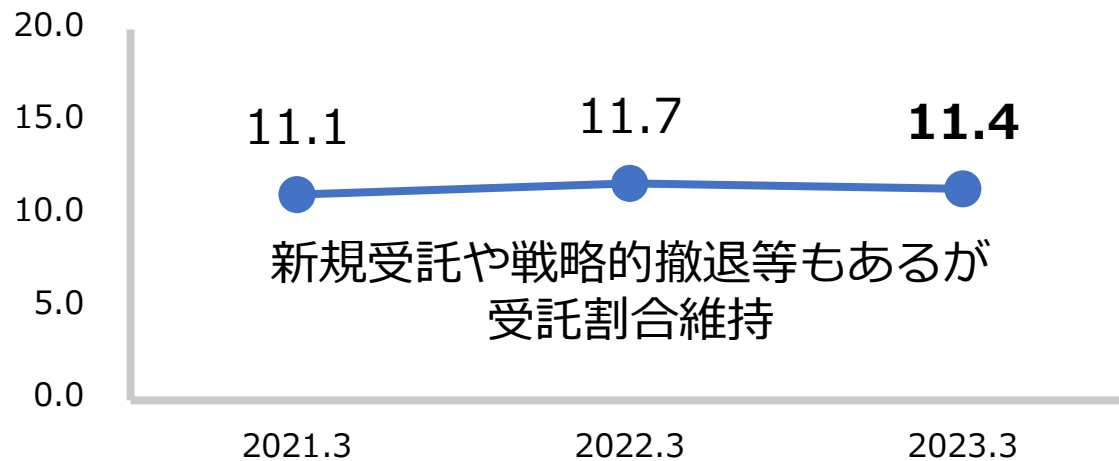
**「技術力のベース」**として

**人的資本に繋がる重要な指数**

## ■ 600床以上の病院における受託割合



## ■ 同受託割合推移 (%)



特殊な環境を有する施設における  
長年の実績をベースとした  
大規模病院の施設維持管理に強み

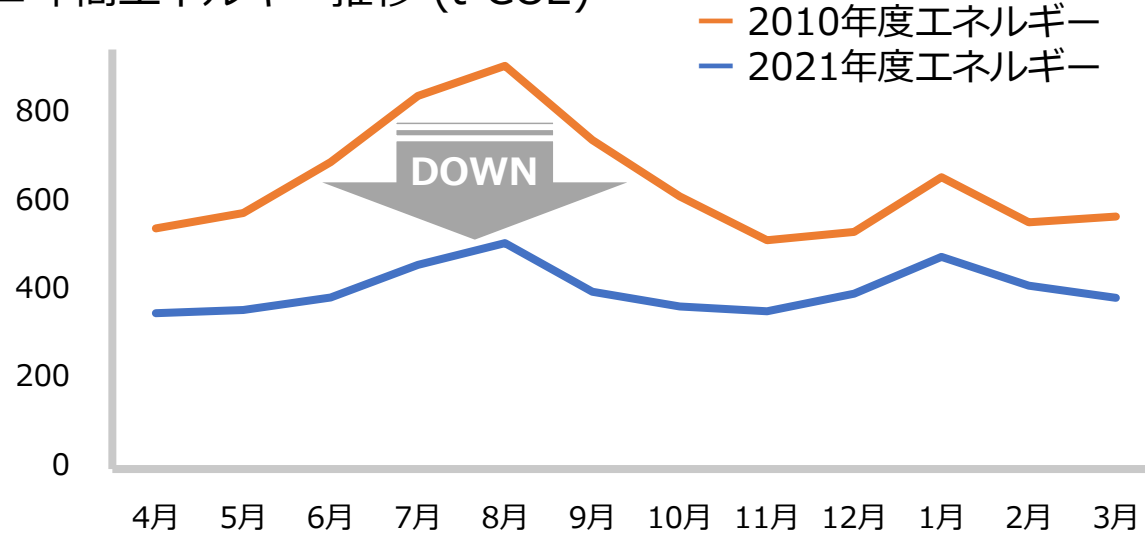


**統括管理・環境性能維持**

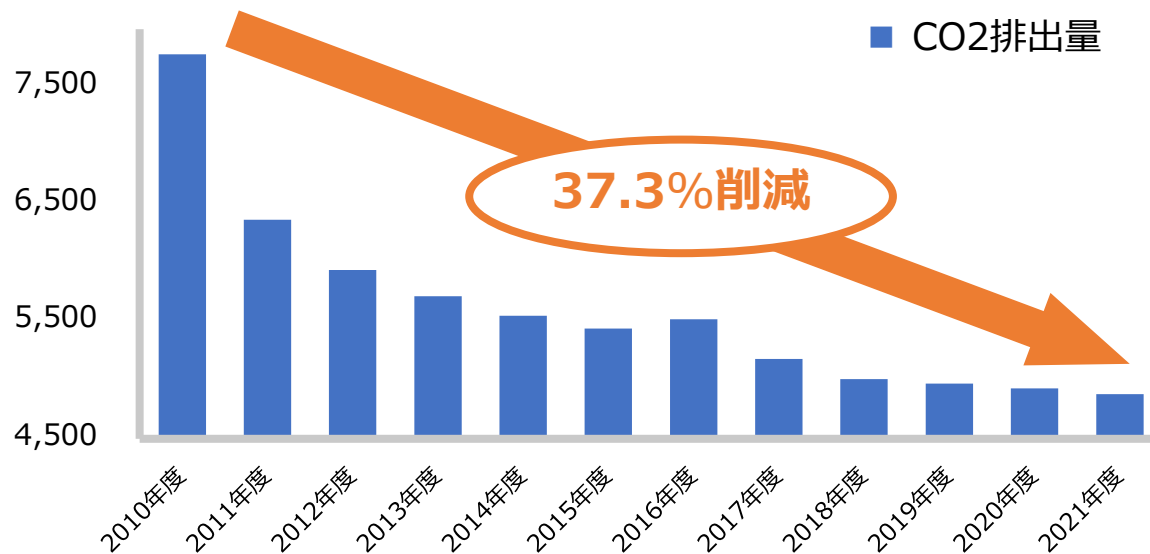


**施設の安定稼働と省エネの  
両立による施設運営最適化を実現させる**

■ 年間エネルギー推移 (t-CO2)



■ 年度別エネルギー推移 (t-CO2)



東京都内にある中規模病院での事例

延床面積：約48,000m<sup>2</sup>



徹底的な現場把握ときめ細かな運営管理を  
**継続**することにより、大幅な省エネに成功

病院は院内環境の最適化を  
 最優先に考える必要がある



設備管理の視点から

設備稼働における「余分」を発見し、  
 その「余分」にアプローチしていくことで、  
 当社独自の視点による省エネを実現する

## ■ 自家消費型太陽光発電

【対 象】 高圧受電・消費電力の多い製造工場等

【目 標】 製造工場等の受注拡大

【状 況】 エネソリューション部を新設し、全国展開に向け注力

対応可能技術者を  
養成しつつ、  
早期の本格稼働を  
目指す

## ■ バリデーション・トータルサポート

【対 象】 医薬品製造工場等

【目 標】 医薬品製造工場等の受注範囲拡大

【状 況】 技術者育成及び体制構築と、案件対応によるノウハウ蓄積に注力

リスクに注意しつつ、  
要求される  
高水準の技術レベルを  
獲得する

## ■ 海外展開

【対 象】 海外進出日系製造工場等

【目 標】 新たな収益基盤の構築

【状 況】 更なる成長に向け、選択と集中で収益基盤構築に注力

各国の状況・ニーズを  
把握しつつ、  
日本国内と同レベルの  
サービスを展開する

※自家消費型太陽光発電：工場等の施設に太陽光パネルを設置することで、事業等で消費する電力の一部を太陽光発電によって賄うシステム。

※バリデーション・トータルサポート：医薬品等製造の設備・工程・方法等が最適な条件であることを科学的に検証・保証すること。



## 発明の名称「空間除染方法及び空間除染装置」

一般的な手法				取得特許 (登録日：2023/4/17)	追加出願特許 (出願日：2023/6/30)
ホルムアルデヒド	二酸化塩素	過酸化水素	過酢酸	<b>過酢酸(ガス状) + 低濃度の過酸化水素溶液</b> で加湿	<b>酢酸(ガス状) + 低濃度の過酸化水素溶液</b> で加湿
発がん性有 残留毒性有	急性毒性有 腐食性有	劇物指定 (>6%) 残留毒性有 腐食性有	腐食性有	湿度による設備等の <b>腐食リスクを抑えて</b> 過酢酸を供給することで <b>効率的な除染が可能</b>	劇物を使用しない <b>安全な除染が可能、</b> <b>より広い範囲での適用</b> が期待される  空間除染において、 <b>過酢酸と</b> <b>ほぼ同等の除染効果</b> が得られることを発見

想定される主な対象施設



医薬・医療関連  
研究施設

再生医療  
施設

病院・大学

医薬工場

食品工場

原薬工場

etc.



※完成予想図

所在地	名古屋市南区
竣工予定	2024年9月
稼働予定	2025年4月
延床面積	約4100㎡
規模	地上5階建
目的	新人の早期戦力化、従業員の技術力向上



※クリーンルーム等を再現した研修設備を整備予定（写真は名古屋支店研修所）



※四重極飛行時間型液体クロマトグラフ質量分析計

- ・クリーンルーム、機械室等メンテナンス現場を再現した研修設備を整備予定
- ・新入社員向：実機を用いた空調ほか設備基礎研修等
- ・既存社員向：実機を用いた設備能力診断研修や各種資格取得に関する研修等
- ・環境管理部：環境分析(理化学・放射線)、微生物検査、作業環境測定、研究開発等に移管予定

- I. 会社概要と強み p.02-p.25
- II. 業績ハイライト p.26-p.38**
- III. 長期ビジョン達成に向けて p.39-p.48

売上高：**241**億円 (+10.3%)

営業利益：**11.2**億円 (+66.7%)

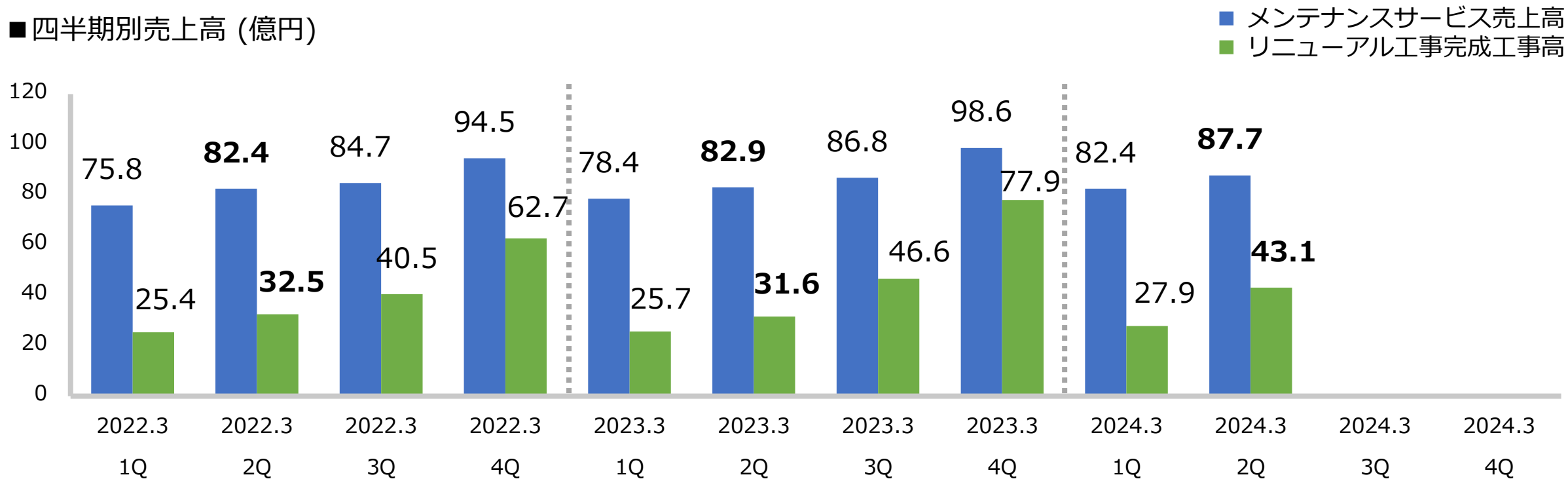
最終利益：**7.7**億円 (+67.8%)

累計期間 (単位：億円、%)	2022年3月期2Q			2023年3月期2Q			2024年3月期2Q		
	金額	売上高 比率	対前年同期 増減率	金額	売上高 比率	対前年同期 増減率	金額	売上高 比率	対前年同期 増減率
売上高	216	100.0	-0.6	218	100.0	+1.2	<b>241</b>	<b>100.0</b>	<b>+10.3</b>
メンテナンスサービス売上高	158	73.2	+3.4	161	73.8	+1.9	<b>170</b>	<b>70.5</b>	<b>+5.5</b>
リニューアル工事完成工事高	57.9	26.8	-10.2	57.4	26.2	-0.9	<b>71.0</b>	<b>29.5</b>	<b>+23.8</b>
売上総利益	38.3	17.7	-2.0	37.7	17.3	-1.5	<b>44.1</b>	<b>18.3</b>	<b>+16.9</b>
メンテナンスサービス売上総利益	30.8	19.5	-1.0	30.7	19.0	-0.6	<b>35.1</b>	<b>20.7</b>	<b>+14.6</b>
完成工事総利益	7.4	12.8	-12.6	7.0	12.3	-5.1	<b>8.9</b>	<b>12.6</b>	<b>+27.1</b>
販売費及び一般管理費	29.1	13.5	+2.0	31.0	14.2	+6.2	<b>32.9</b>	<b>13.6</b>	<b>+6.1</b>
営業利益	9.1	4.2	-12.9	6.7	3.1	-26.2	<b>11.2</b>	<b>4.7</b>	<b>+66.7</b>
経常利益	9.8	4.6	-10.5	8.2	3.8	-16.8	<b>12.7</b>	<b>5.3</b>	<b>+55.6</b>
税金等調整前四半期純利益	23.7	11.0	-19.4	8.2	3.8	-23.3	<b>12.7</b>	<b>5.3</b>	<b>+55.7</b>
親会社株主に帰属する四半期純利益	15.9	7.4	+154.3	4.6	2.1	-71.0	<b>7.7</b>	<b>3.2</b>	<b>+67.8</b>
EPS (単位：円)	45.95	—	+157.7	13.52	—	-70.6	<b>22.65</b>	<b>—</b>	<b>+67.5</b>

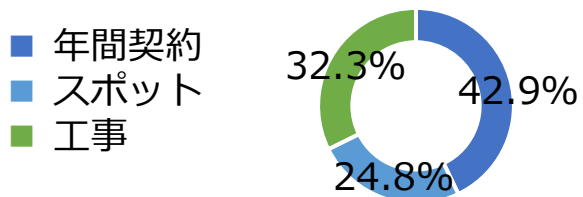


売上高は2Qとして過去最高。主力のメンテナンスサービスは、病院及び研究施設・製造工場等におけるスポットメンテナンスの増加により2期連続で2Qとして過去最高。リニューアル工事も同施設での案件消化が好調。

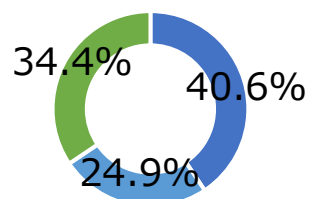
■ 四半期別売上高 (億円)



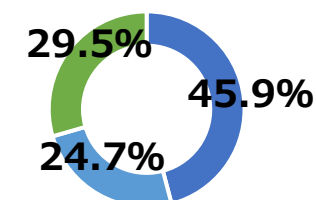
2022年3月期売上高比率



2023年3月期売上高比率

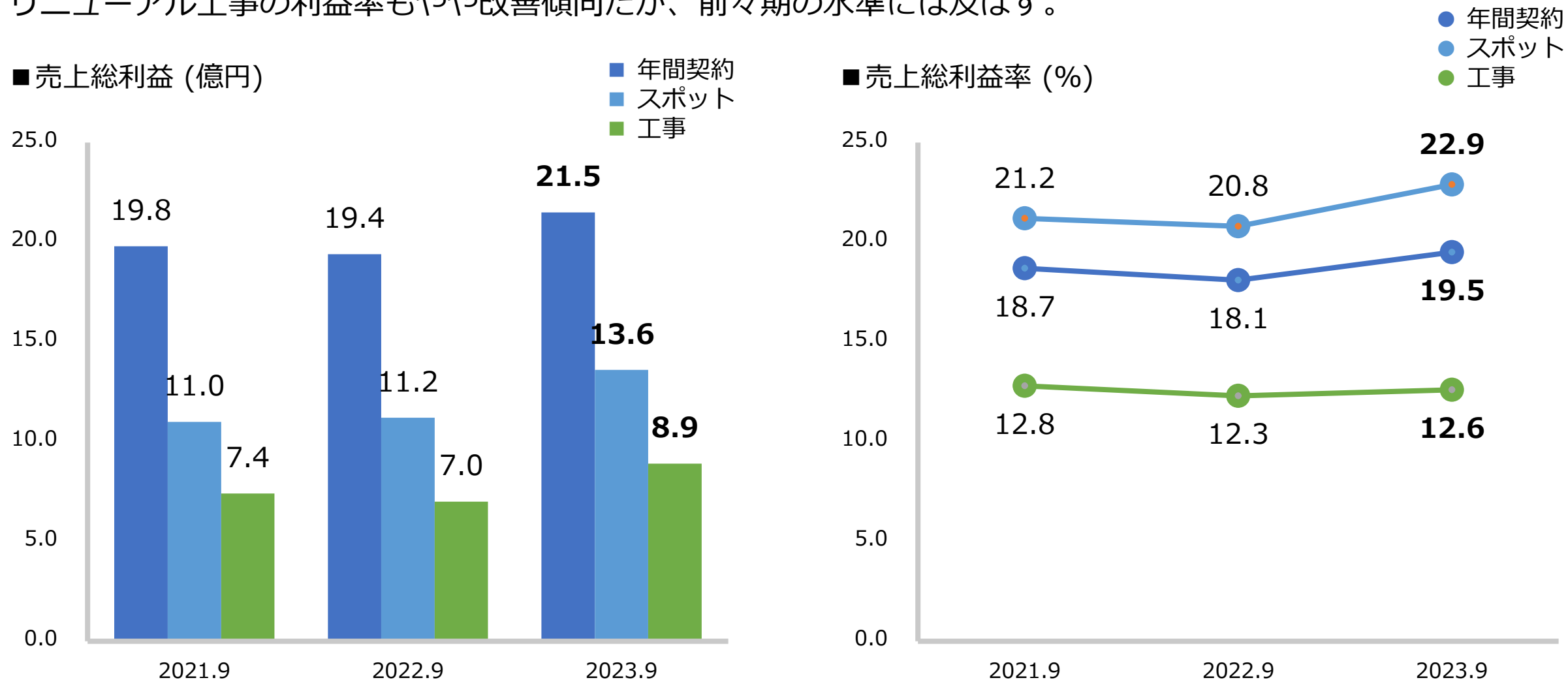


2024年3月期2Q売上高比率



資機材の調達価格や人件費の上昇等をこなして、メンテナンスの利益率が改善。

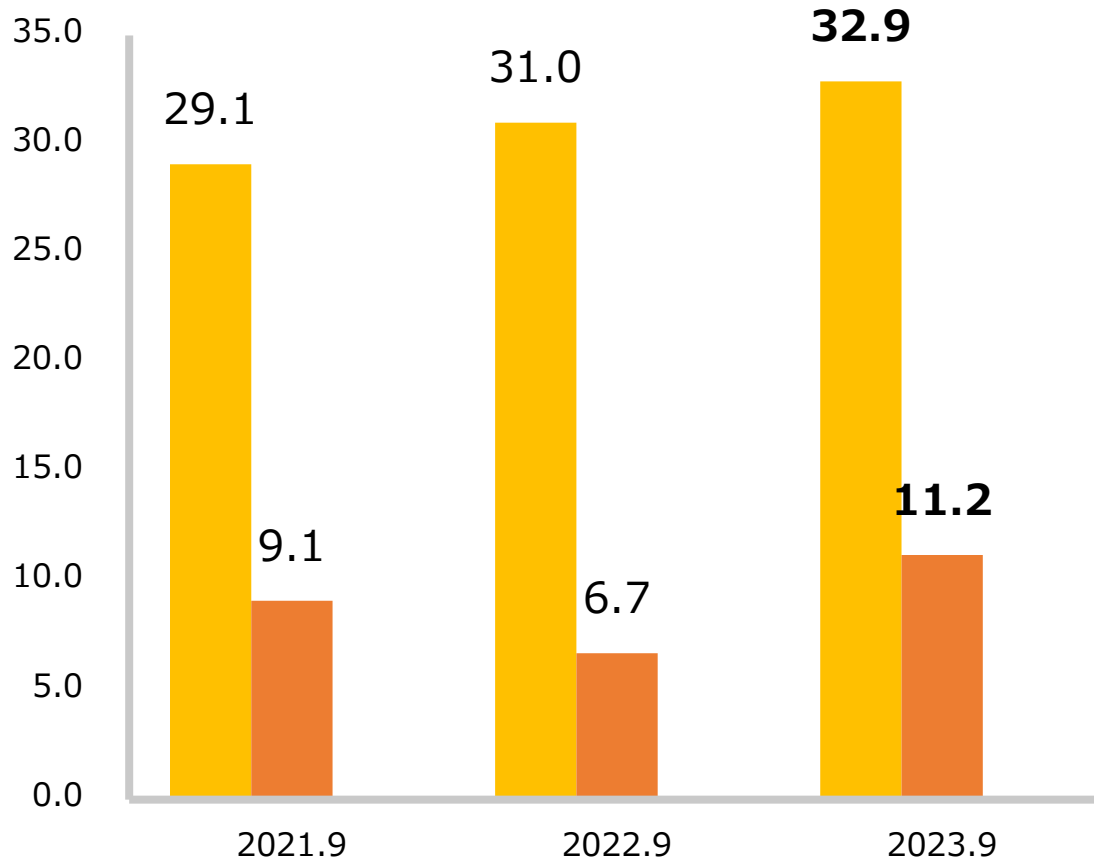
リニューアル工事の利益率もやや改善傾向だが、前々期の水準には及ばず。



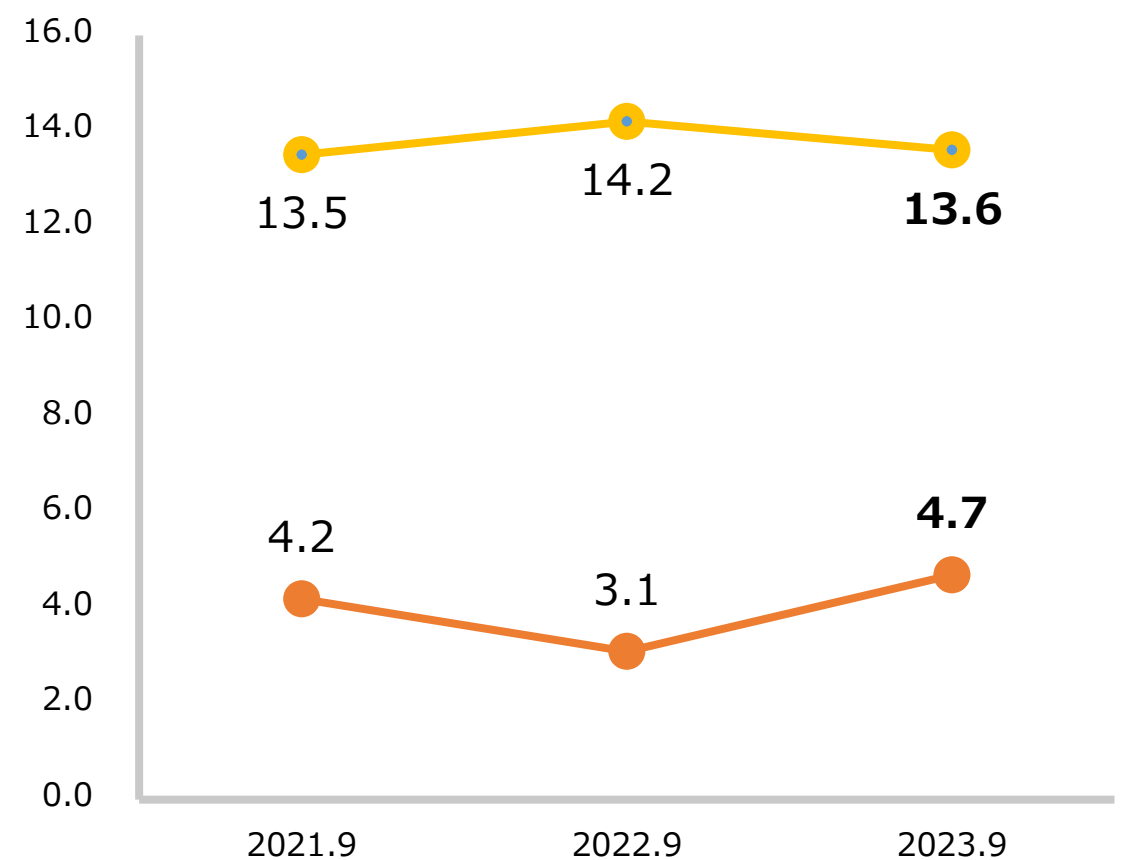


ベースアップによる人件費の増加やコロナ禍の行動制限解消等により販管費が増加したものの、それを上回る売上高の増加により、営業利益は額・率ともに前期・前々期を上回る。

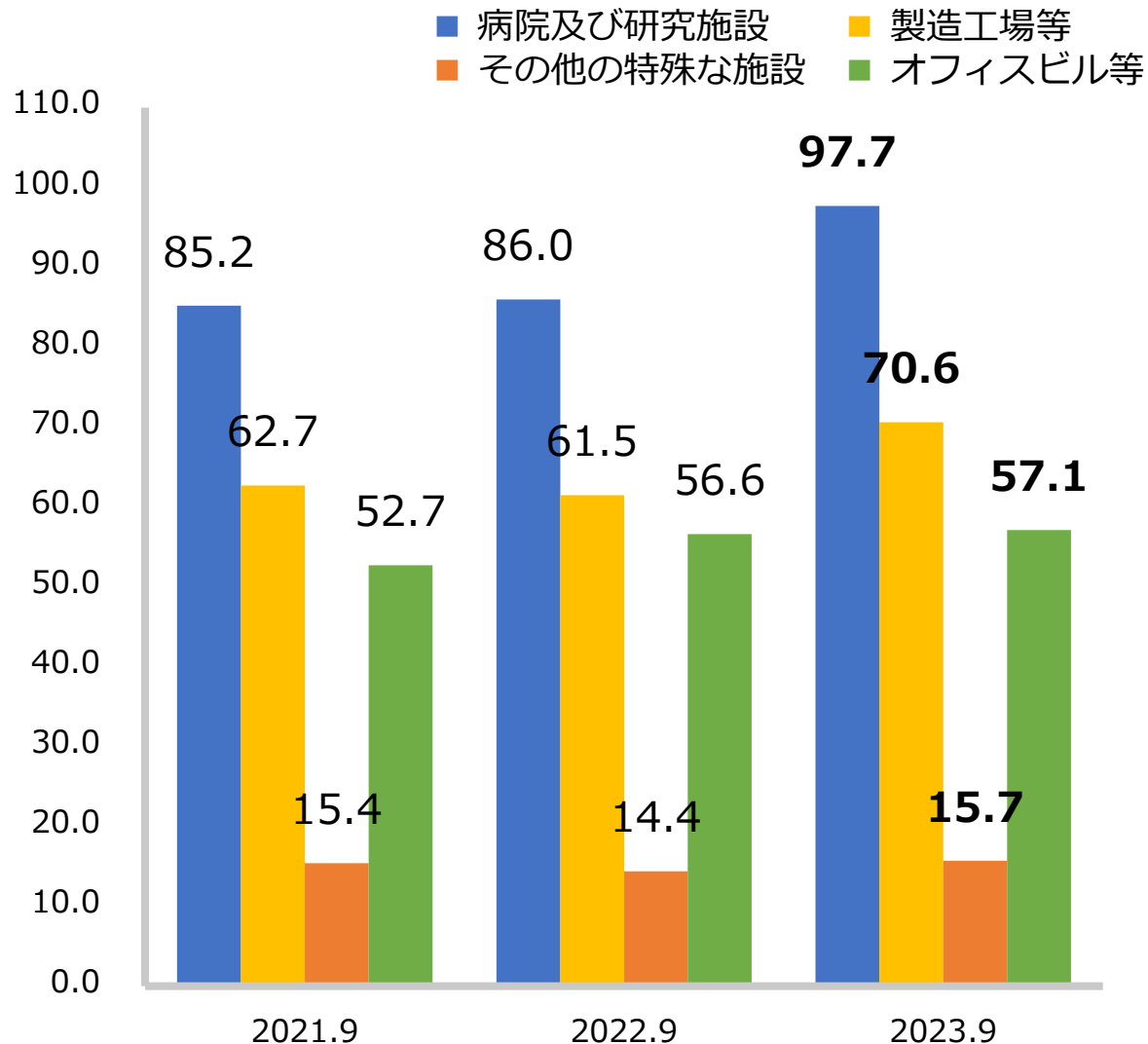
■ 販管費／営業利益 (億円)      ■ 販管費      ■ 営業利益



■ 販管费率／営業利益率 (%)      ● 販管费率      ● 営業利益率



## ■受託施設別売上高 (億円)



### ①病院及び研究施設

- ・主に改修工事案件が大幅に増加。  
スポットメンテナンス案件も順調に増加。

### ②製造工場等

- ・スポット案件の増加が寄与するとともに、自家消費型太陽光発電設置工事も引き続き好調に推移

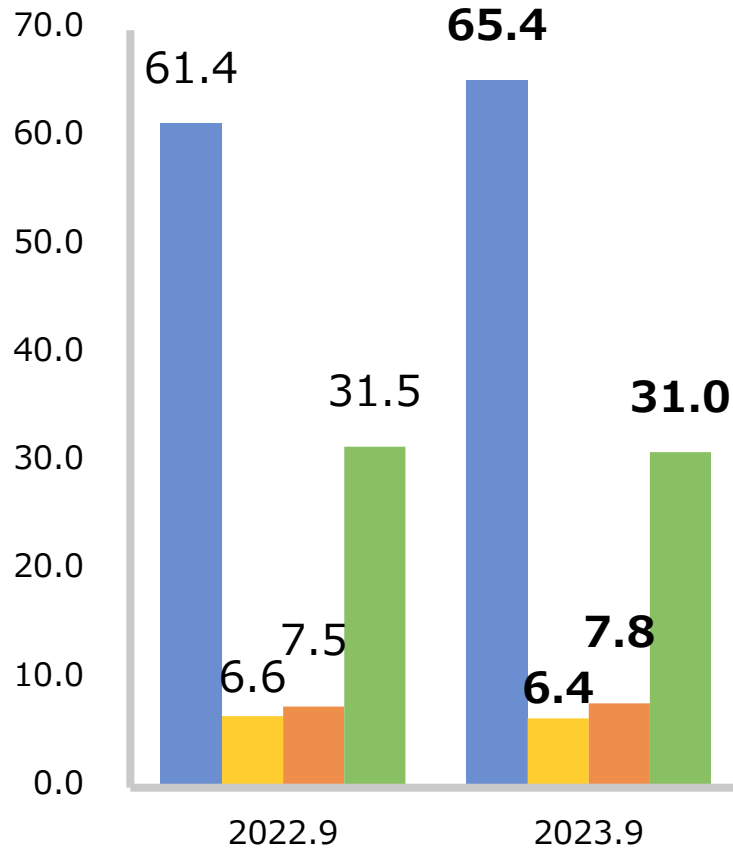
### ③その他の特殊な施設

- ・太陽光発電関連がやや増加するも、引き続き製造工場等を中心とした自家消費型案件へのシフトが進んでおり横ばい

### ④オフィスビル等

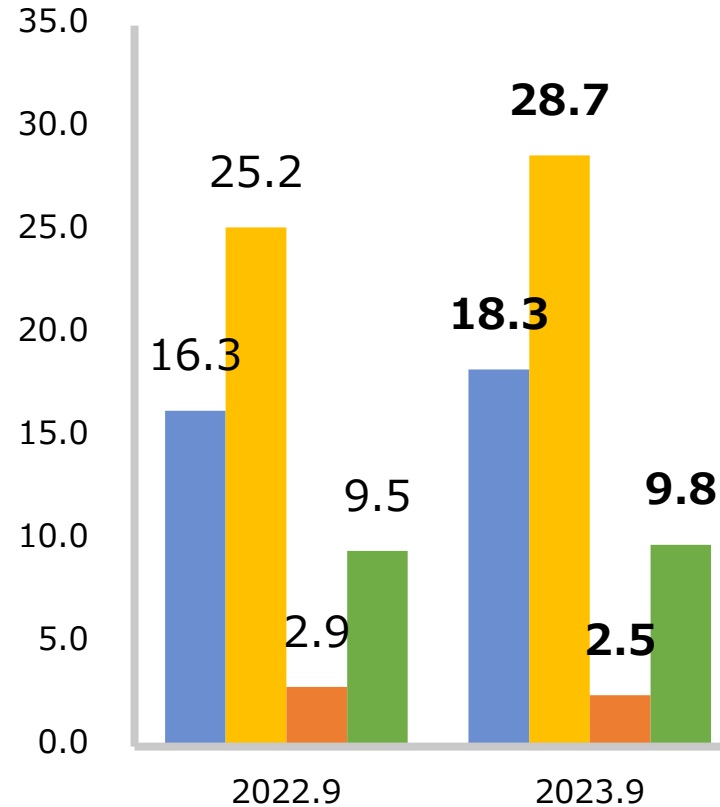
- ・大学、学校関連施設の設備工事案件増加

■年間契約売上高 (億円)



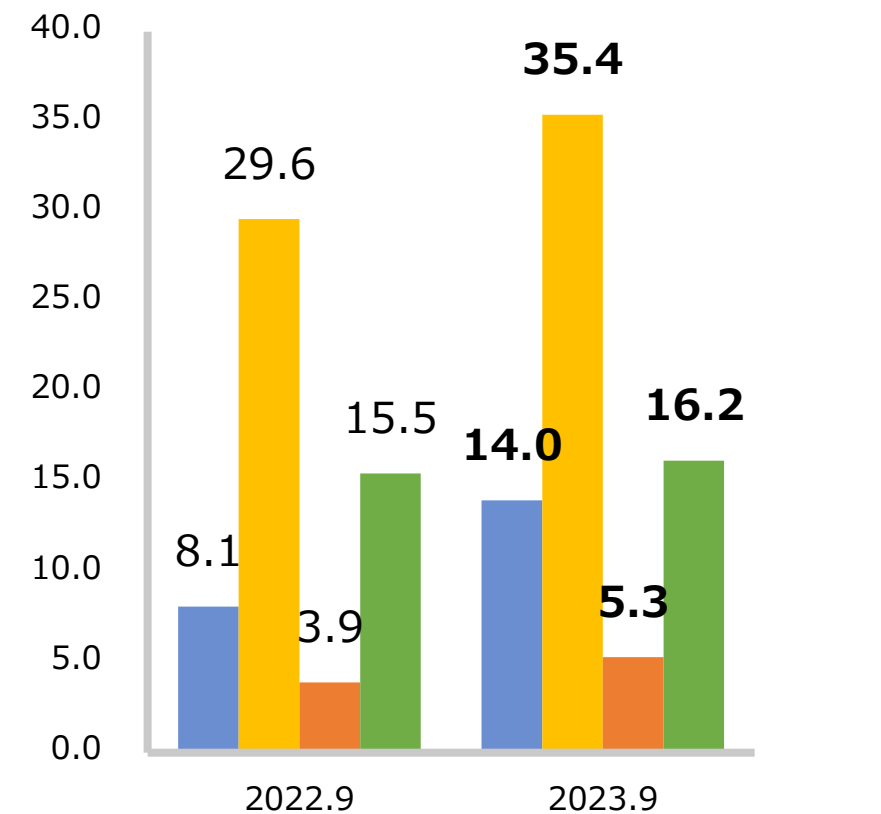
受注件数：2,672件 **2,674件**  
 平均単価：3,927千円 **4,057千円**

■スポットメンテナンス他  
売上高 (億円)



受注件数：17,659件 **18,364件**  
 平均単価：296千円 **313千円**

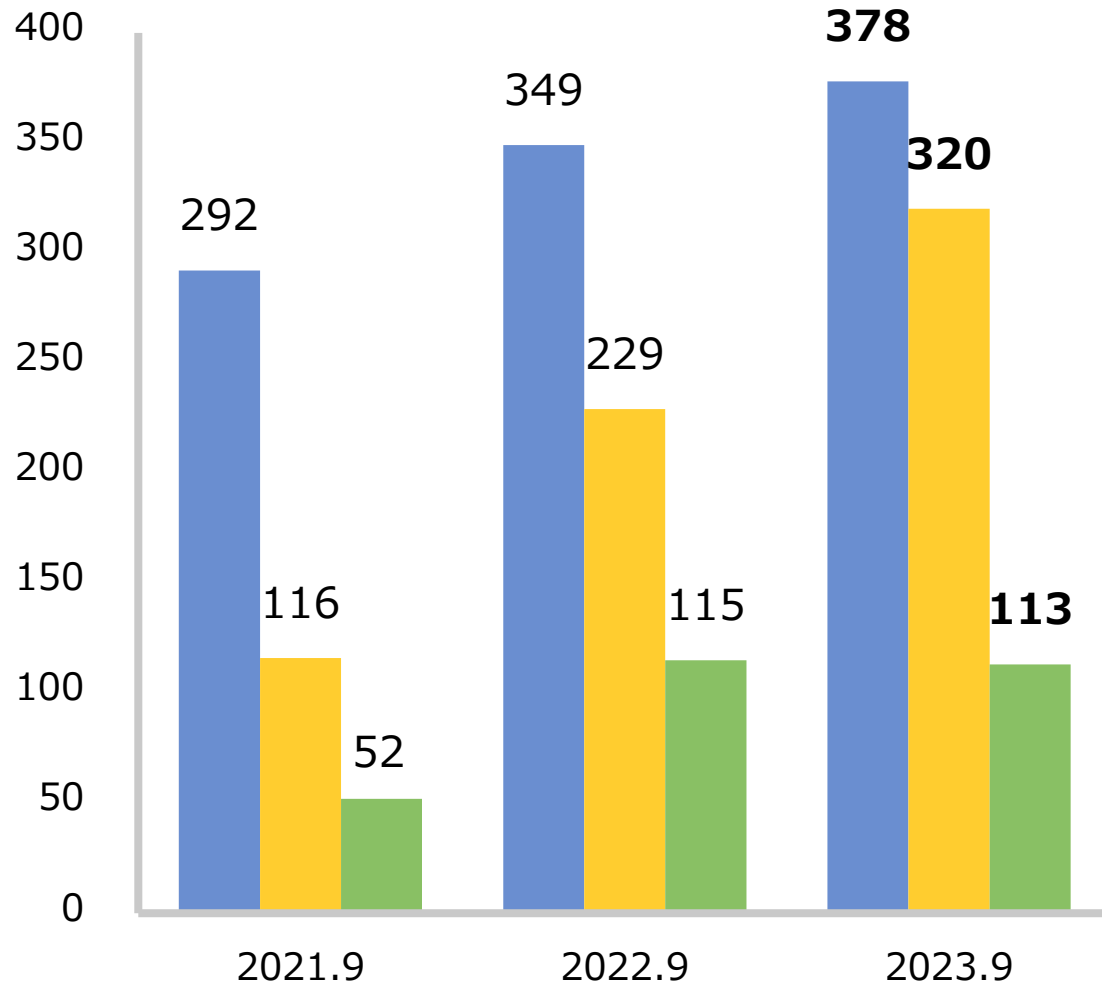
■リニューアル工事  
完成工事高 (億円)



受注件数：1,871件 **2,054件**  
 平均単価：2,915千円 **3,268千円**

※受注件数・平均単価は国内のみ。

■地域別海外売上高 (百万円) ■ 中国 ■ シンガポール  
■ その他

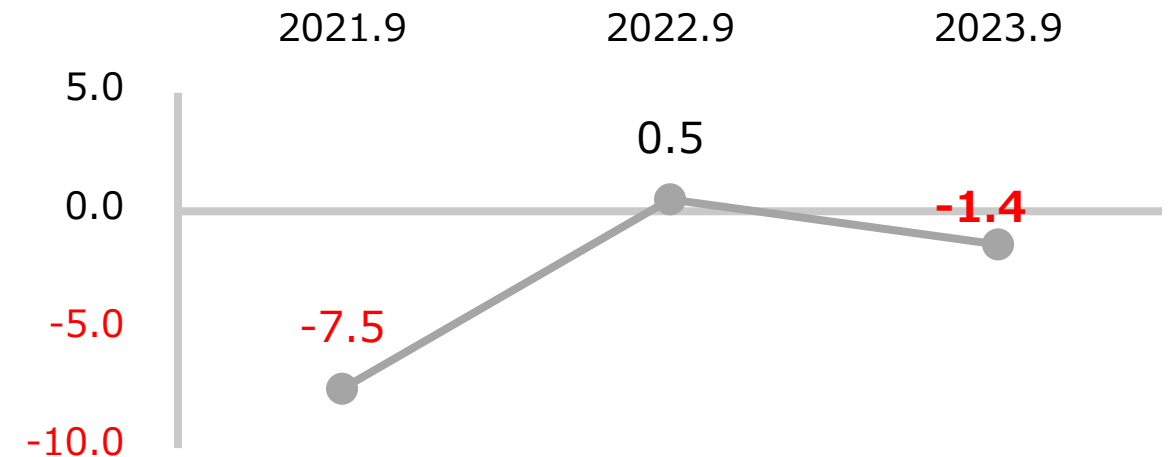


**海外売上高：812百万円**

**海外営業利益比率：-1.4%**

行動制限の緩和等による受注環境改善により、  
 売上高は増加したものの、  
 物価上昇や人件費増加等により赤字が続く

■海外営業利益比率 (%)



※その他はバングラデシュ、タイ、ベトナム、ミャンマー。  
 ※海外営業利益比率は海外グループ各社の単純合算営業利益数値を用いて算出。

連結 (累計期間)	2023年3月期2Q		2024年3月期2Q	
	金額 (億円)	対前年同期 増減額 (億円)	金額 (億円)	対前年同期 増減額 (億円)
営業 キャッシュ・フロー	4.0	-13.1	23.3	+19.3
投資 キャッシュ・フロー	-4.5	-16.2	-8.0	-3.5
財務 キャッシュ・フロー	-5.7	+2.1	-5.6	+0.0
現金及び現金同等物 増減額	-5.7	-26.9	9.8	+15.6
現金及び現金同等物 期首残高	66.4	+4.2	58.8	-7.6
現金及び現金同等物 四半期末残高	60.7	-22.7	68.7	+7.9

営業CFプラス



売上債権減少

投資CFマイナス



有形固定資産取得による支出

連結 (期末現在)	2023年3月期		2024年3月期2Q	
	金額 (億円)	前期末比 増減率 (%)	金額 (億円)	前期末比 増減率 (%)
流動資産	234	+8.3	212	-9.2
固定資産	141	+4.7	151	+7.6
資産合計	375	+6.9	364	-2.9
有利子負債	9.9	+15.1	9.4	-8.4
その他負債	148	+7.7	131	-11.4
負債合計	158	+8.2	140	-11.2
純資産合計	217	+6.0	224	+3.2
負債・純資産合計	375	+6.9	364	-2.9

## 自己資本比率

56.8% ⇒ 60.3%



支払手形・工事未払金等

57.9億円⇒38.8億円

季節的要因による

流動負債減少

新型コロナウイルス感染症対策と社会経済活動の両立が進む一方で、不安定な国際情勢や物価上昇、供給制約等が続くと予想するものの、省エネや省コスト等に関する潜在ニーズを掘り起こし、増収増益を目指す。重要な人的資本投資である給与水準の引き上げの原資を確保するため、売上高・利益の増加が必須となる。

累計期間 (単位：億円、%)	2023年3月期 (実績)			2024年3月期 (予想)			「2019中期5ヵ年経営計画」 最終年度 (目標)		
	金額	売上高 比率	対前期 増減率	金額	売上高 比率	対前期 増減率	金額	売上高 比率	2023年 3月期時点 達成率
売上高	528	100.0	+6.0	<b>560</b>	<b>100.0</b>	<b>+5.9</b>	550	100.0	96.2
メンテナンスサービス売上高	346	65.6	+2.7	<b>365</b>	<b>65.2</b>	<b>+5.2</b>	375	68.2	92.5
リニューアル工事完成工事高	182	34.4	+12.9	<b>195</b>	<b>34.8</b>	<b>+7.1</b>	175	31.8	104.0
売上総利益	93.2	17.6	+5.9	<b>100</b>	<b>17.9</b>	<b>+7.2</b>	95.0	17.3	98.2
販売費及び一般管理費	64.8	12.3	+4.7	<b>70.0</b>	<b>12.5</b>	<b>+8.0</b>	65.0	11.8	99.7
営業利益	28.4	5.4	+8.8	<b>30.0</b>	<b>5.4</b>	<b>+5.4</b>	30.0	5.5	94.9
経常利益	30.5	5.8	+8.9	<b>31.0</b>	<b>5.5</b>	<b>+1.6</b>	31.0	5.6	98.4
親会社株主に帰属する当期純利益	19.4	3.7	<b>-31.2</b>	<b>20.0</b>	<b>3.6</b>	<b>+3.1</b>	19.0	3.5	102.1

※2024年3月期は「2019中期5ヵ年経営計画」の最終年度となる。  
 ※2023年4月より正社員の給与水準の引き上げ(平均 6.8%)を実施。

- I. 会社概要と強み p.02-p.25
- II. 業績ハイライト p.26-p.38
- III. 長期ビジョン達成に向けて p.39-p.48**



# 全てのステークホルダーの幸せ向上



持続的な株主価値向上



資本生産性の向上



**人的資本の価値向上**

# 人的資本の価値向上を目指す 4つのプロジェクト

新人・若手層の早期戦力化や  
従業員の技術力向上を目的と  
した、新たな研修センターを  
現在建設中

## 「人」

採用・広報



「人財不足」への対応



優秀な人財の採用



## 「満足度」

制度・環境改善



「人財流出」への対応



従業員満足度の向上



## 「技術力」

作業効率改善



時間外労働の削減



生産性向上



## 「教育」

新人財育成



新人・若手層の早期戦力化

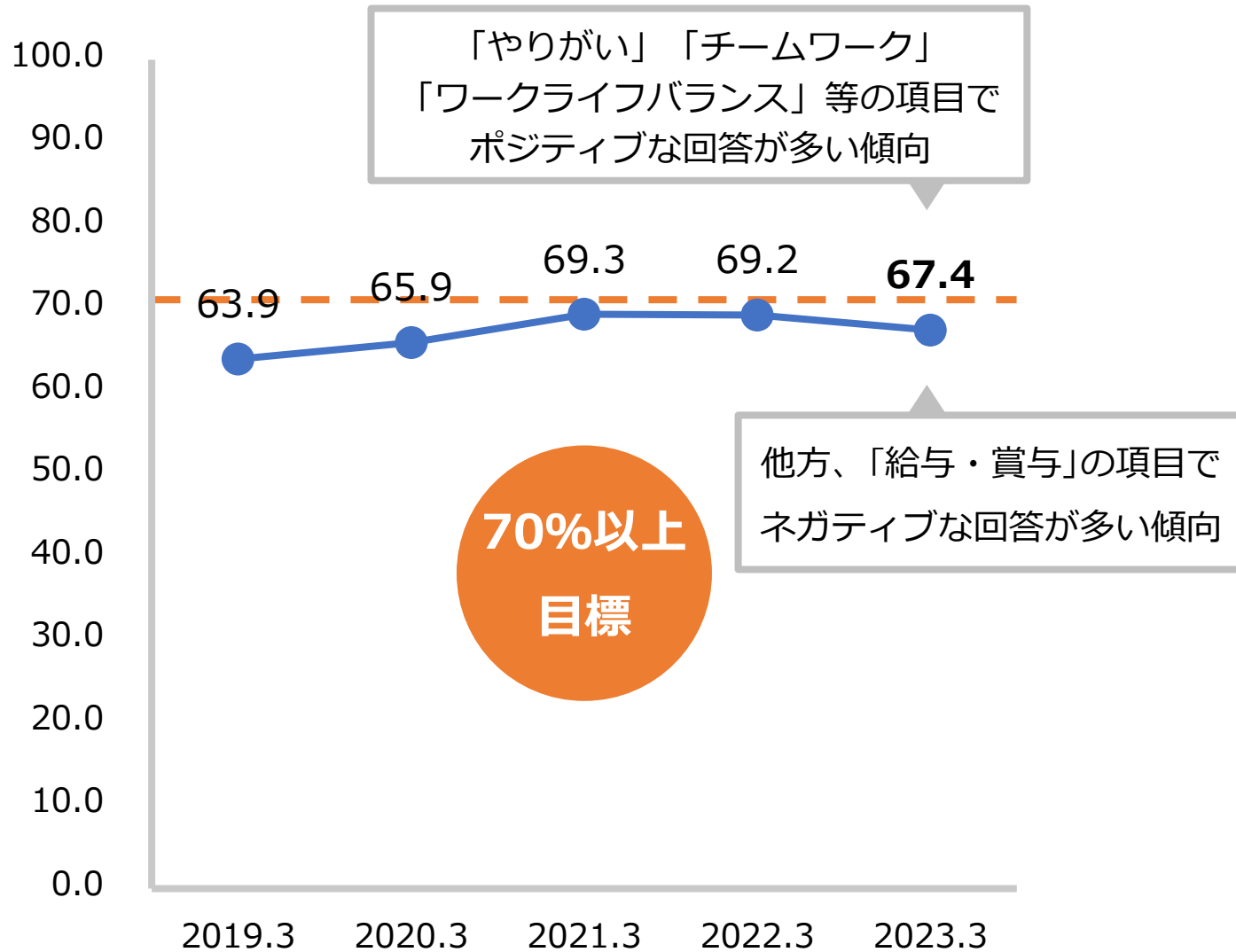


従業員の技術力向上



未来の非財務資本を構築する

■ 従業員満足度 (%)



## 従業員満足度：67.4%

各種プロジェクトでの取り組み  
(給与水準の引き上げ等)や  
インナーコミュニケーション充実  
により改善を目指す



顧客満足度のベース

「企業価値の根幹」

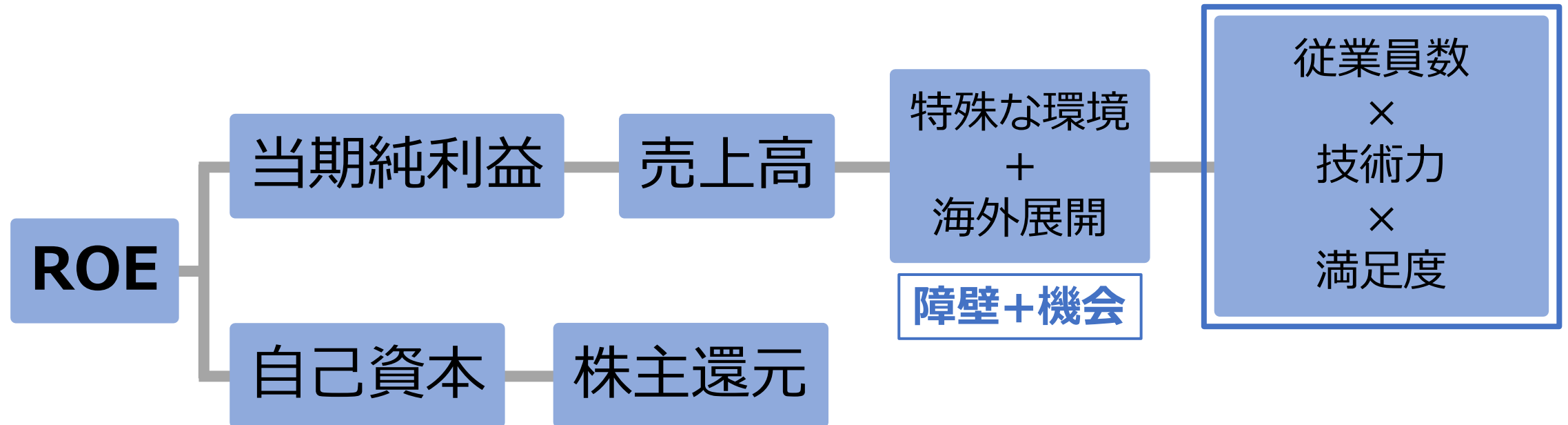
人的資本に繋がる

※従業員満足度は当社実施の従業員満足度調査結果より算出、当社単体。

# 資本生産性向上の最重要ファクター

## 「人的資本の価値向上」

### ESG(社会)に繋がる

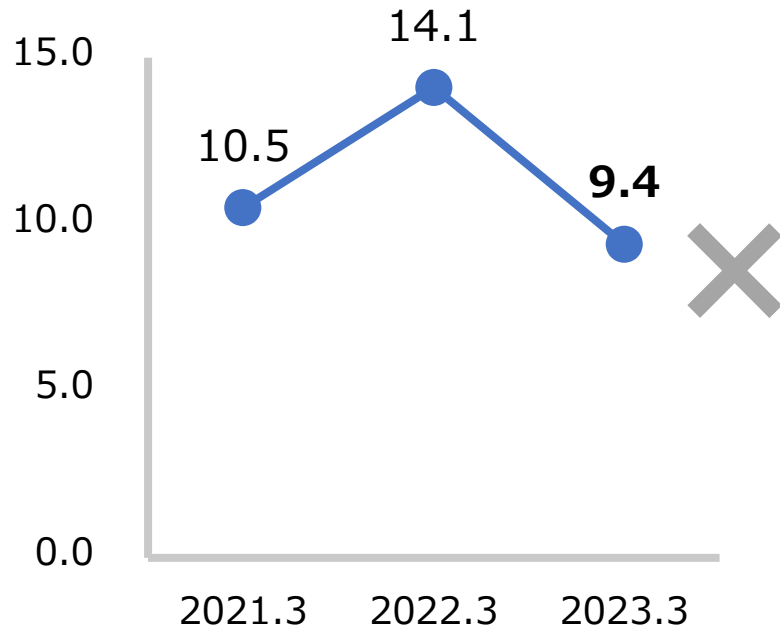


資本生産性(ROE)を高めた上で  
配当性向50%を維持する

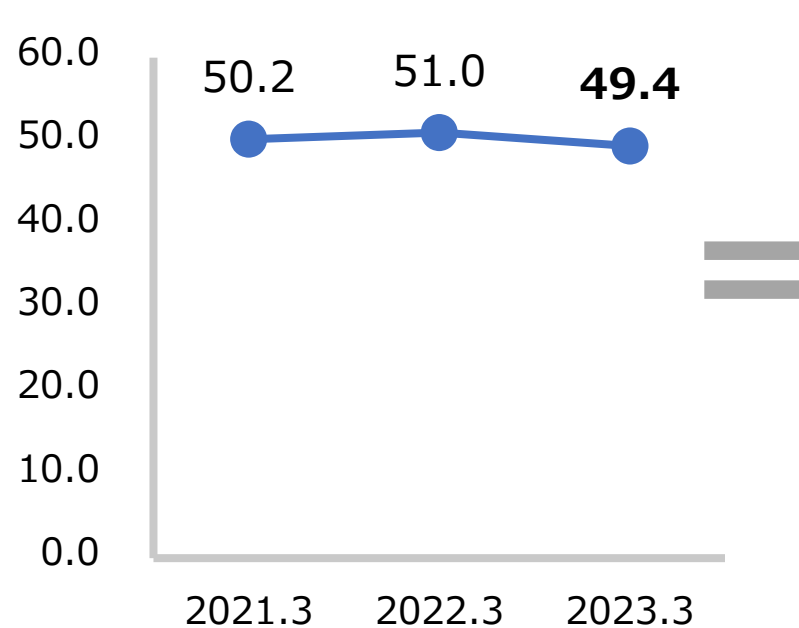


純資産配当率を意識した株主還元の実施

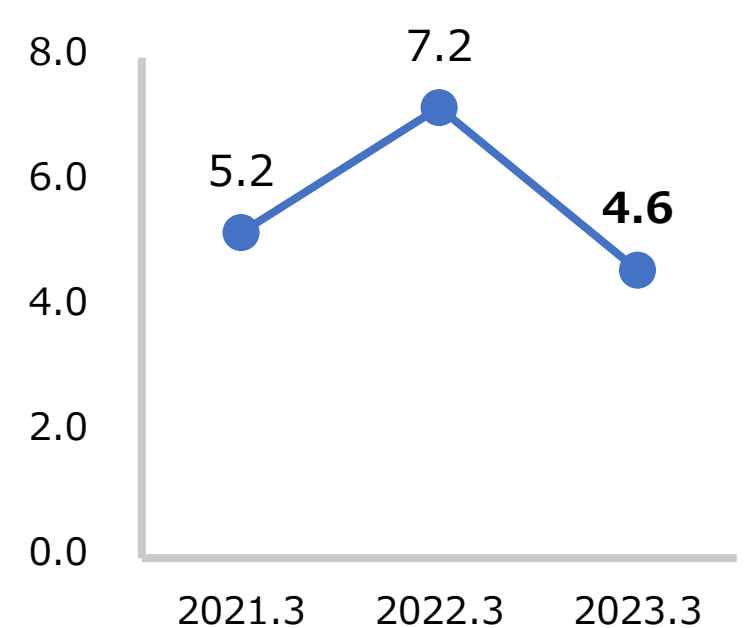
■ ROE (%)



■ 配当性向 (%)

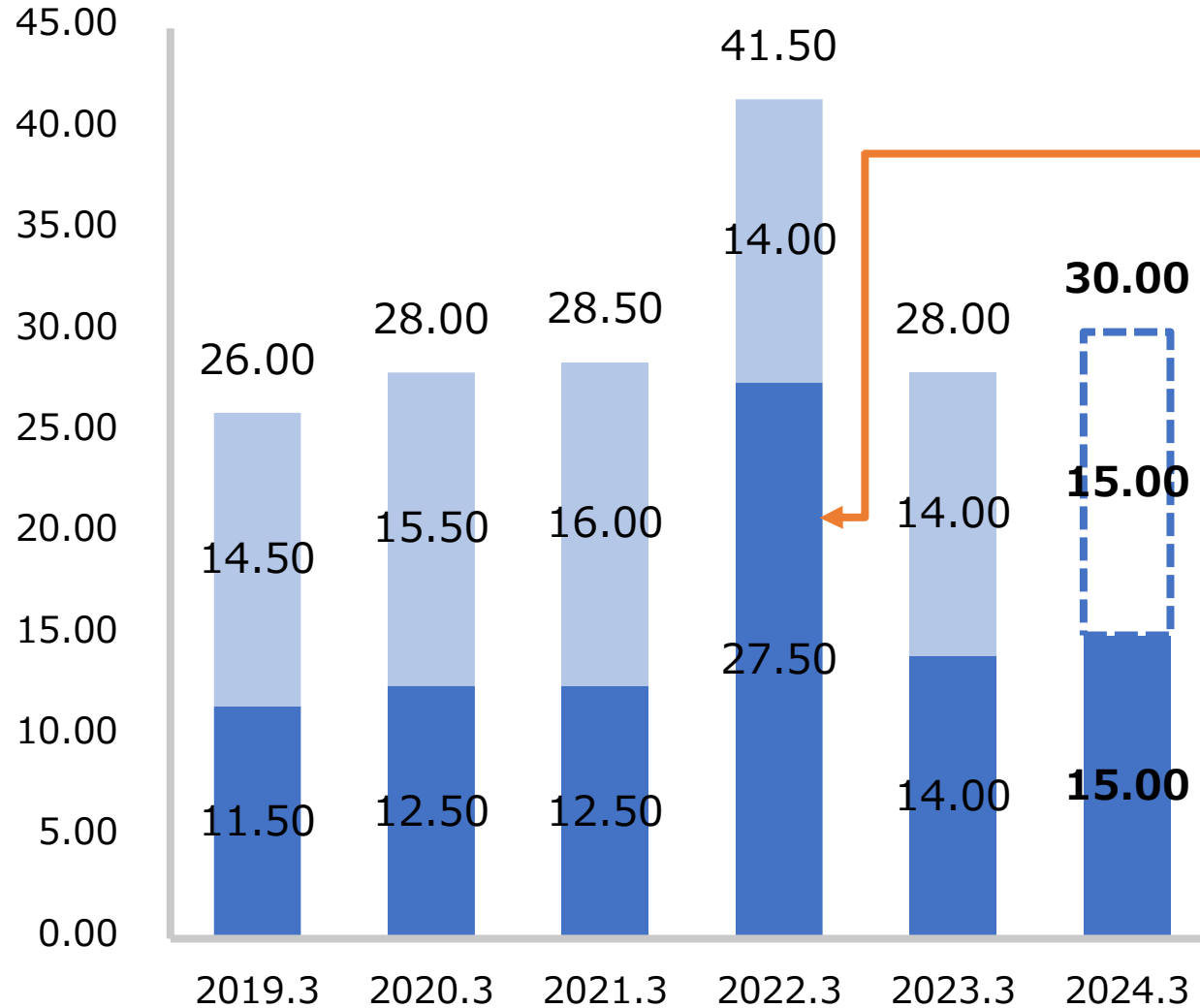


■ 純資産配当率 (%)



■ 1株当たり配当金 (円)

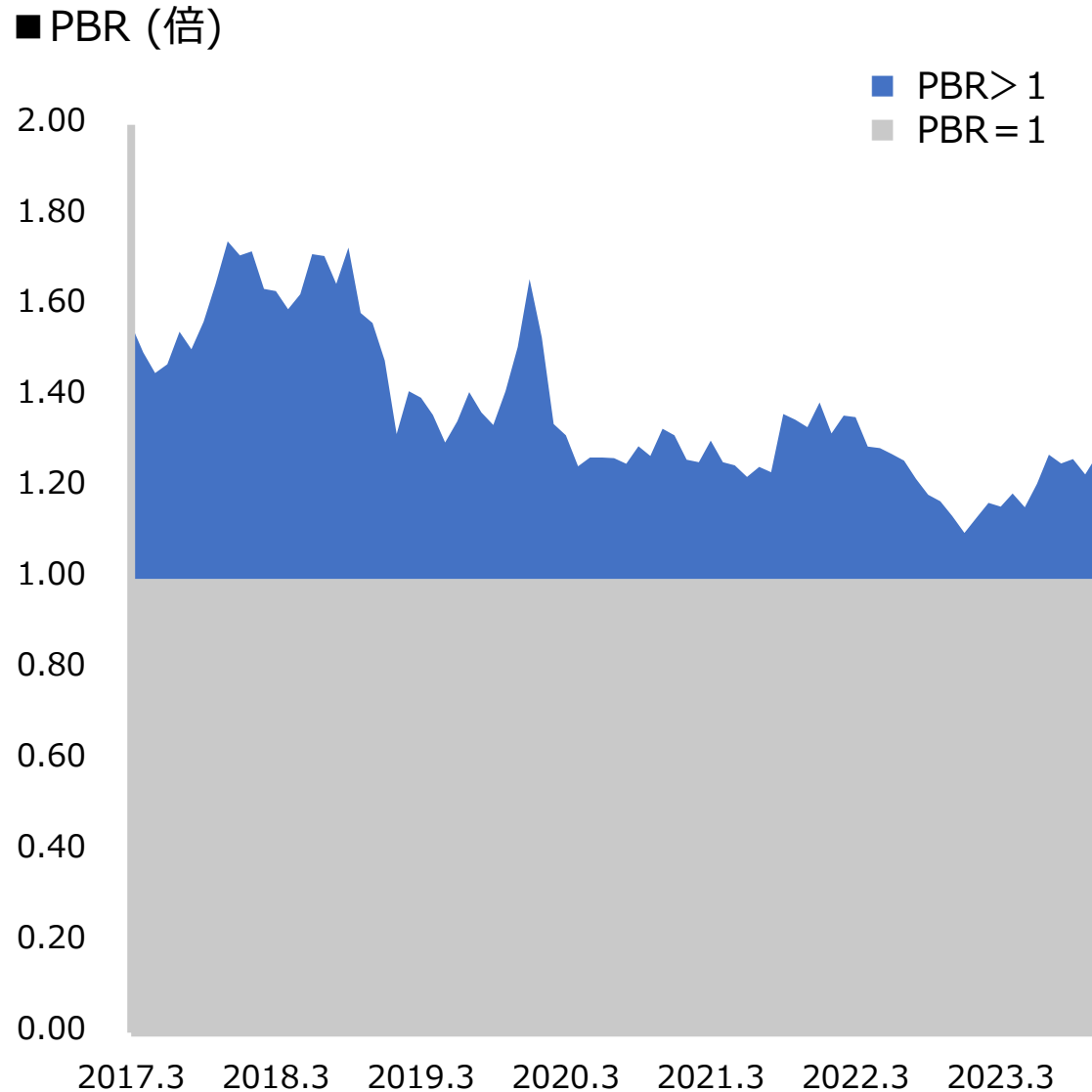
■ 期末配当金  
■ 中間配当金



投資有価証券売却益の計上に伴う  
最終利益増加額の50%相当を  
**特別配当として還元**  
**1株当たり13.50円**

「2019中期5カ年経営計画」では、  
EPS目標54円の50%相当となる  
1株当たり27円の年間配当を目標  
としていたが、それを上回る  
**1株当たり30円の配当予想**

※最終利益は「親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益」を指す。



## PBR > 1

非財務資本の評価

資本コストを上回る資本生産性



「持続的な株主価値創造」

ESG(ガバナンス)に繋がる



中長期的な企業価値拡大

全てのステークホルダーの幸せ向上

売上高：**550**億円 (特殊な環境を有する施設**75**%)

営業利益：**30.0**億円 (海外営業利益比率**5**%)

最終利益：**19.0**億円

EPS：**54**円 (配当性向**50**%維持)

ROE：**10**%維持

※最終利益は「親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益」を指す。  
※売上高・営業利益・最終利益・EPS・ROEは2024年3月期目標。



# 全てのステークホルダーの幸せ向上



※各数値は「2019中期5カ年経営計画」の最終年度(2024年3月期)目標数値。

※技術力は技術力指数(p.20参照)、満足度は従業員満足度(p.42参照)にて評価。

ステークホルダーの皆様に  
ヨロコバ  
**4658**れる企業を目指します。

**www.nikku.co.jp**

IR担当：経営企画部

TEL：052-773-2513      FAX：052-771-9790

E-mail：ir4658@nikku.co.jp

